職場で試して、関わりに小さな変化が生まれた。

2020年12月11日発表。部下のできることと、自発的な関わりを育てる訓練から。

当時、約1カ月の研修間に報告した変化

相談が生まれる

関係をつくりにくかった
部下から、自発的な相談。

できることが増える

本人が進められる仕事が
増え、自発的になってくる。



説明を知るだけでなく、実際に関わり、相手の反応から次を考える。

人物場面は、当時の実践を読み解くための説明図です。

翌日から試し、約1カ月後に持ち寄る。

第1回と第2回の間に、実際の職場で関わる時間を組み込んでいました。

第1回

理解して、練習する

関わり方を具体的に学び、
場面を設定して
実際に練習する。

→

翌日から

職場で試す

部下との関わりを試し、
相手の反応と、
進まなかったところを見る。

→

約1カ月後｜第2回

持ち寄り、練習し直す

取り組みの記録を共有。
つまずいた内容を検討し、
必要なやり方を再び練習。

参加者の反応・アンケート　⟶　第2回の内容を見直す

関わり方を練習する、研究との接点

Parsonsら（2013）は、対人支援職10人に、他の職員へ教える方法を訓練しました。
模擬場面と通常の職場で指導行動を確認。見本・練習・具体的な返し方の参考です。

一次研究：Parsons, Rollyson & Reid（2013）

引き継ぎ表を、次の判断に使える形へ。

仕事の例。取り決めの目的を、次の人が進める仕事から確かめます。

全欄を埋めた

品名：A部品

数量：100個

発送日：来週の予定

**受け手は、発送日が確定するまで
次の作業を決められない。**

確定と未確定を分ける

確定済み：品名・数量

未確定：発送日

確認先：物流担当

次の連絡：発送日が確定したら

**何が決まり、何を待つか。
次の人の判断へ渡す。**

本人が別の一件で試し、受け手の判断を確かめる。書式は責任者と見直す。

記録を持ち寄り、関わり方を練習し直す。

相談が生まれた一件も、まだ支援が必要な一件も、次の練習の材料にしました。



持ち寄る記録

試した関わり

相手に起きたこと

止まったところ

次に練習する一部分

必要な見本や助言を選び、
相手と実際にやってみる。

例えば、引き継ぎ表で、相手が次に使う情報を選んで渡す練習へ。

自分の仕事の、気になる一場面から。

最初から課題を整理しきらなくても、短い例を眺めるところから始められます。

教える準備をしたい

仕事を教える実践室

自分に近い困りごとを一つ選び、
短い例を眺める。
必要な見本や練習を考える。

教える準備の例を見る →

引き継ぐ仕事を整理したい

仕事を見直す実践室

「仕事を引き継ぐ」を選び、
短い例を見る。
受け手に必要なことを考える。

近い引き継ぎ場面を見る →

次の一件で、まず一つ。

相手に渡す情報と、判断してほしいことを、一つそろえる。

リクエスト株式会社｜request@requestgroup.jp

資料の活用・育成の相談 →